

ざっくポラン 第11号

このコーナーでは、住民と役場職員の協働参画によって作られた宇美町生涯学習ボランティア専門部会から発展したボランティア広報会議のメンバーが、ボランティアをしている人を応援し、ボランティアの「はじめの一歩」のきっかけになるような記事を掲載していきます。

単純な気持ちで始めた。始まりでした。



「好き」という熊谷京子さん (ひばりが丘一区在住)



今回は、布の絵本製作「ポエム」をはじめ、宇美ネットワーク「みらい樹」、町内小中学校・県立図書館での読み聞かせの他、福祉工房「わかくす」でハンドベルを教えるなど多彩な活動を行っている熊谷京子さんを紹介します。

ボランティアをはじめたきっかけ

読み聞かせの活動のきっかけは、10年程前に井野小のお話会に誘われたこと。深く感動を受け、自分もやってみようと思い読み聞かせに参加したら、やみつきになってしまいました。そのことが縁で、布の絵本製作や「みらい樹」の仲間と出会い、サークル活動に広がりました。同じ頃、子ども会を通じて出会った「わかくす」で、音楽で何か力になることが出来ないかと思い、飛び込みでお願いしてハンドベルを始めました。どれも元をたどれば・本好き・音楽好きという単純な気持ちが始まりでした。

※宇美ネットワーク「みらい樹」・・・平成10年し～ず・うみ主催事業「宇美町と女性」の参加者が「自分たちが考えていることを社会へ発信しよう」と結成。様々な講演会や「町長と語ろう」を主催したり、し～ず・うみと共催している。また、図書館応援団「うみらいぶらりい倶楽部」にもメンバーが参加しており、地域に根ざした図書館づくりを目指すなど幅広く活動を進めている。



ボランティアを続けてこられたのは



喜んでくれる人がいて、自分もまた元気をもらえるから。それに同じ志をもつ仲間との信頼関係が深まり、とても居心地のよい時間、空間を持てるからです。



素敵で暮らしやすい宇美町に！

宇美町には、たくさんのボランティアの方がいらっやいます。そんなみなさんが活動しやすいように行政の方にも力を貸していただき、暮らしやすい町になるといいですね。「子ども読書の街」になるためには、図書館を中心に学校・保育園・幼稚園・家庭・地域が力を合わせることが大切だと思います。



布の絵本製作「ポエム」さんが町立図書館開館時に贈呈されたとっても素敵な布のカレンダーが貸出カウンター横に飾ってあります。図書館来館の際にはぜひ一度ご覧ください。

